

内科必修－3 呼吸器内科

一般目標

- ① 一般臨床医として診療を求められる呼吸器疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気胸、急性気管支炎、胸膜炎）について、診断、治療ができるようになる。
- ② 専門的治療を要する呼吸器疾患（肺癌、間質性肺炎、縦隔腫瘍、膿胸等）については、診断プロセスを修得し、治療の基本的方針を理解した上で、専門医に適切なコンサルトができるようになる。

具体的目標

基本的手技

- ① 胸部単純X線画像、胸部CT画像の基本的な読影法を修得する。
- ② 呼吸器疾患への超音波検査の適応を理解し、基礎的な活用ができるようになる。
- ③ 動脈血ガス分析、肺機能検査の結果を正しく理解できるようになる。
- ④ 胸腔穿刺法、胸腔チューブの挿入方法、胸腔チューブ抜去のタイミング・方法を修得する。
低圧持続吸引の原理を述べることができる。
- ⑤ 気管内挿管の手順、注意点を理解し、介助者と一緒に行うことができるようになる。
- ⑥ 人工呼吸管理の基本的原理を理解する。
- ⑦ 気管支鏡検査の手順を理解し、介助ができるようになる。

(疾患) 一般臨床医の対象となる疾患

・肺炎(急性気管支炎、肺化膿症を含む)

診断上必要な検査を選択し、指示することができる。

適切な抗生剤の選択ができ、治療効果の評価ができるようになる。

入院基準、退院基準を述べることができる。

・慢性閉塞性肺疾患

定義、診断基準を述べることができる。

急性増悪及び、安定期の基本的治療ができるようになる。

在宅酸素療法の適応と外来管理上の注意点をのべることができる。

・気管支喘息

喘息発作に対する基本的な治療ができるようになる。

喘息の治療薬の理解(コントローラーとレリーバー)と適切な使用ができるようになる。

・気胸

胸腔チューブ挿入の適応、外科的治療の適応を述べることができる。

再発症例に対する基本的な治療方針を理解し、治療を進めることができる。

・胸膜炎(胸水貯留例)

鑑別診断をあげ、そのための適切な検査項目を選択し、指示することができる。

(疾患) 専門的治療を要する疾患

・肺 癌

診断のための必要な検査を指示することができる。

臨床病期診断ができ、病期毎の基本的な治療方針を述べることができる。

・間質性肺炎

鑑別診断をあげ、そのための適切な検査項目を選択し、指示することができる。

急性増悪の症状、病態を述べることができる。

・縦隔腫瘍

鑑別診断をあげ、そのための適切な検査を選択し、指示することができる。

基本的な治療方針を述べることができる。

・膿 胸

膿胸の定義を述べることができ、診断に必要な検査を選択し、指示することができる。

実臨床研修

- ① 毎日の回診あるいは申し送りにおいて、入院担当患者について問題点を提示し、指導医、上級医と検討を行う。
- ② 入院担当患者の病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。退院時には退院サマリを作成し、指導医、上級医の確認を受ける。
- ③ 救急患者、予約外患者の診察にも参加し、自ら病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。
- ④ 症例カンファレンスにおいては、症例を提示し、指導医、上級医との討論を行う。
- ⑤ 会や研究会での発表を行う。

研修評価

- ・各科ローテート終了後に研修指導医師が研修評価表に基づいて評価を行い、以後の指導の参考にする。

■呼吸器内科 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診		
午後			チャートラ ウンド	気管支鏡 検査			

第4節 呼吸器内科〔選択科向け研修〕

一般目標

- ③ 一般臨床医として診療を求められる呼吸器疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気胸、急性気管支炎、胸膜炎）について、診断、治療ができるようになる。
- ④ 専門的治療を要する呼吸器疾患（肺癌、間質性肺炎、縦隔腫瘍、膿胸等）については、診断プロセスを修得し、治療の基本的方針を理解した上で、専門医に適切なコンサルトができるようになる。

具体的目標

基本的手技

- ⑧ 胸部単純X線画像、胸部CT画像の基本的な読影法を修得する。
- ⑨ 呼吸器疾患への超音波検査の適応を理解し、基礎的な活用ができるようになる。
- ⑩ 動脈血ガス分析、肺機能検査の結果を正しく理解できるようになる。
- ⑪ 胸腔穿刺法、胸腔チューブの挿入方法、胸腔チューブ抜去のタイミング・方法を修得する。
低圧持続吸引の原理を述べることができる。
- ⑫ 気管内挿管の手順、注意点を理解し、介助者と一緒に行うことができるようになる。
- ⑬ 人工呼吸管理の基本的原理を理解する。
- ⑭ 気管支鏡検査の手順を理解し、介助ができるようになる。

（疾患）一般臨床医の対象となる疾患

・肺炎（急性気管支炎、肺化膿症を含む）

診断上必要な検査を選択し、指示することができる。

適切な抗生剤の選択ができ、治療効果の評価ができるようになる。

入院基準、退院基準を述べることができる。

・慢性閉塞性肺疾患

定義、診断基準を述べることができる。

急性増悪及び、安定期の基本的治療ができるようになる。

在宅酸素療法の適応と外来管理上の注意点をのべることができる。

・気管支喘息

喘息発作に対する基本的な治療ができるようになる。

喘息の治療薬の理解（コントローラーとレリーバー）と適切な使用ができるようになる。

・気胸

胸腔チューブ挿入の適応、外科的治療の適応を述べることができる。

再発症例に対する基本的な治療方針を理解し、治療を進めることができる。

・胸膜炎(胸水貯留例)

鑑別診断をあげ、そのための適切な検査項目を選択し、指示することができる。

(疾患) 専門的治療を要する疾患

・肺 癌

診断のための必要な検査を指示することができる。

臨床病期診断ができ、病期毎の基本的な治療方針を述べることができる。

・間質性肺炎

鑑別診断をあげ、そのための適切な検査項目を選択し、指示することができる。

急性増悪の症状、病態を述べることができる。

・縦隔腫瘍

鑑別診断をあげ、そのための適切な検査を選択し、指示することができる。

基本的な治療方針を述べることができる。

・膿 胸

膿胸の定義を述べることができ、診断に必要な検査を選択し、指示することができる。

実臨床研修

- ⑥ 毎日の回診あるいは申し送りにおいて、入院担当患者について問題点を提示し、指導医、上級医と検討を行う。
- ⑦ 入院担当患者の病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。退院時には退院サマリを作成し、指導医、上級医の確認を受ける。
- ⑧ 救急患者、予約外患者の診察にも参加し、自ら病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。
- ⑨ 症例カンファレンスにおいては、症例を提示し、指導医、上級医との討論を行う。
- ⑩ 会や研究会での発表を行う。

研修評価

- ・各科ローテート終了後に研修指導医師が研修評価表に基づいて評価を行い、以後の指導の参考にする。

■呼吸器内科 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診	申し送り 病棟回診		
午後			チャートラ ウンド	気管支鏡 検査			